

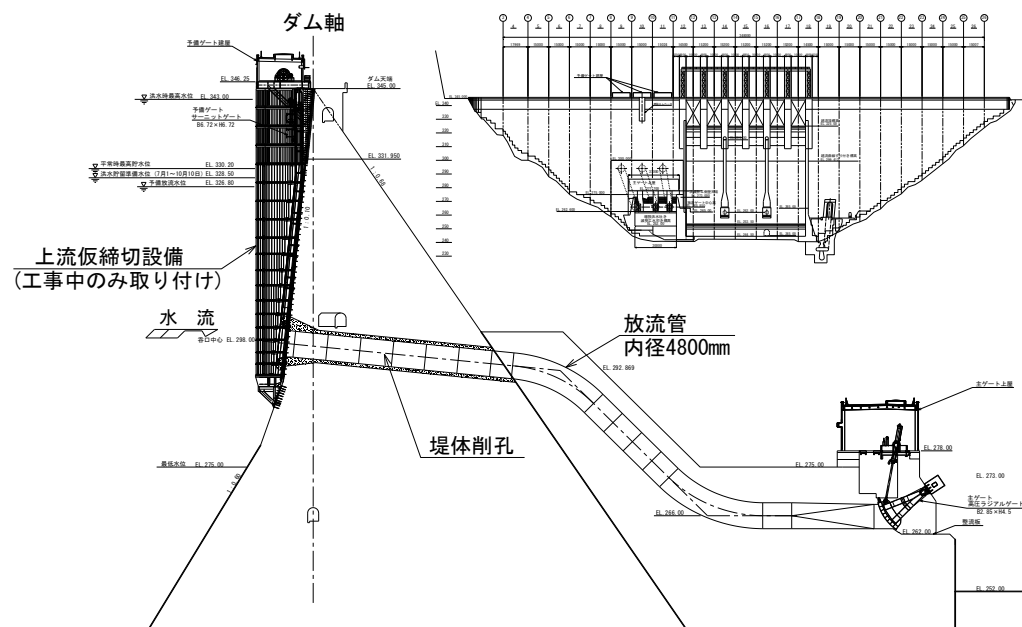
ダムに貯めている水が、工事中に下流へ流れ出さないように取り付けています

洪水の時に水を安全に流すゲートや流れを緩やかにする施設などを設置します

新しく放流管を設置するため、堤体に、たて6m×よこ6mの孔(あな)をあけています



さめうら
早明浦ダム再生事業



吉野川上流総合管理所 早明浦ダム再生事業推進室

〒781-3401 高知県土佐郡土佐町土居593番地 TEL0887-72-9750



工事進捗状況はこちら



早明通ダム再生事業HP

ダム再生事業の概要



目的 洪水調節

総事業費 約500億円

工期 2018年度から2028年度までの11年間の予定



ダム再生事業の沿革

1965年度	早明浦ダム建設事業に着手
1975年度	早明浦ダム管理開始
2005年度	吉野川水系河川整備基本方針 策定
2009年度	吉野川水系河川整備計画 策定
2017年度	吉野川水系河川整備計画 変更 吉野川水系における水資源開発基本計画(一部変更) 早明浦ダム再生事業に関する事業実施計画認可
2018年度	早明浦ダム再生事業着手
2024年度	早明浦ダム再生事業に関する事業実施計画(第1回変更)認可

早明浦ダム諸元

堤高	106.0m
堤頂高	400m
総貯水容量	3億1,600万 m^3
流域面積	472 km^2
目的	洪水調節 流水の正常な機能の維持 新規用水の供給 水力発電
管理開始	1975年4月1日

2018年4月 早明浦ダム 再生事業 START!!

早明浦ダム再生事業の内容

**容量の
振替**

ダムからの補給方法を変更して、利水容量の700万 m^3 を洪水調節容量に振り替えます。

**予備放流
の導入**

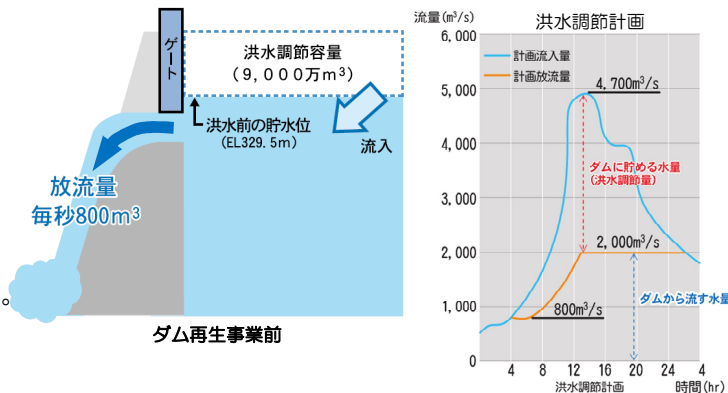
大雨が降りそうとき、予め水を放流して水位を下げ、洪水に備えます。

**放流設備
の増設**

容量の振替と予備放流を行うことで、ダムの水位が下がり、今のゲートでは適切な量の放流ができなくなるため、放流設備を増設します。

ダム再生事業後でも 洪水調節計画は 変わりません

早明浦ダムは、洪水調節計画に基づき、流入量が毎秒800 m^3 に達するまでは、流入量と同じ流量を放流します。



ダム堤体の規模を変えず洪水調節 容量を増大します

利水容量の一部を洪水調節容量に振り替え、さらに予備放流を行うと、洪水前の貯水位を現在よりも下げることができ、洪水調節容量を増大することができます。ただし、貯水位が下がると、ゲートからの放流能力が足りなくなってしまうです。

適切な放流能力を確保す るために、

現在のゲートよりも低い場所に放流設備を増設します。これにより、適切な量の放流をすることができます。

